

# 令和2年度 認定こども園にじいろ 研究まとめ

研究主題 幼児期にふさわしい生活の在り方を求めて

研究副主題 やってみよう！の気持ちが続く環境構成と援助

「幼児期にふさわしい生活の在り方を求めて」を研究主題として取り組んだ今年度の研究のまとめをお知らせいたします。今年度は、「やってみよう！の気持ちが続く環境構成と援助」を副主題とし、ホール、園庭、保育室（異年齢活動）、季節の遊びに分かれて、主体的に遊びが広がるための環境やそこに向かうための保育者の援助について研究をしました。

## ●○ホール●○

積み木を壁側に設置、遊具表示の取り付け

- ・見えるところに遊具を設定しておくことで、子どもたちから「やりたい！」と話す姿が増えました。
- ・日常生活の中で、遊具が片付いた様子が目に入るので、子どもたちが主体的に片付けをするようになりました。

乳児、幼児、子育てサロンの子どもと様々な子どもたちが遊ぶ空間なので、それぞれの安全性を確保しながら、遊びを継続的に取り組める環境づくりに難しさも感じました。



## ●○季節の遊び●○

遊びのテーマ(泥団子づくり、色水)を決める。

- ・年齢に応じて、扱いやすい道具を用意したり、作り方を丁寧に知らせたりすることで、自然物でじっくり楽しむ姿が増えました。
- ・個別につくった物を取っておける場があることで、すぐに遊び始めることができ、継続して取り組む姿が見られました。
- ・年長が取り組む姿から、他クラスの子どもたちも興味を示し、園全体で遊びが盛り上がりました。

遊びを盛り上げるために、保育者の教材研究や事前準備の必要性を感じました。また、素材の感覚を体で感じたり、覚えたりしていく中で、継続して取り組んでいくことが大切であると気付きました。

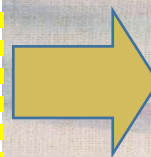


## ●○保育室(異年齢活動)●○

遊具棚の整備(写真、表示の取り付け)

- ・どんな玩具があるのか、写真表示をしてわかりやすくなったことで、朝夕の異年齢活動時に、「やりたい！」と声を出す姿が増えました。また、片付けの際にもわかりやすくなり、自発的に片付けをする様子もみられました。
- ・写真表示を見ながら、友達との玩具で遊ぶか相談する姿につながり、遊びをイメージしやすくなりました。

様々な年齢、用途で使用する場所なので、継続的に遊びを展開していく難しさを感じました。また、異年齢保育の際に子どもの様子や発達を考えながらも「やりたい！」を保障する環境づくりも課題となりました。



## ●○園庭●○

遊具棚の整理(遊具を低い棚にまとめ、大きめの写真表示の取り付け)、登り棒チャレンジ

- ・表示を大きくし、低い棚にまとめることで、低年齢の子どもたちも自分の使いたい物を手に取って遊ぶ姿につながりました。また、上段につくった物を取って置くことができ、継続して遊ぶことができました。
- ・登り棒にテープの目印を付けたことで、目標に向かって取り組む様子やできた嬉しさを保育者や友達と共有する姿が見られ、次の意欲につながっていきました。

遊具棚の整理はしましたが、写真表示が不足していて、片付ける際に子どもたちが混乱する姿がありました。どの年齢の子どもにも分かりやすくなるよう、かごの色を変える、配置場所の工夫が更に必要であると感じました。



## 成果

☆子どもがイメージする遊びや生活の場を保障するための保育を行うことで、幼児期にふさわしい生活に向かう姿が現れました。

→自分でできた！の自信が「次もやりたい」「次はどうしよう」の試行錯誤や友達、保育者との交流につながっていきました。



## 課題

☆「もっとやりたい！」を実現するための環境構成。

→今年度は、子どもたちの「やりたい！」をキャッチし、実現できるよう支えてきましたが、ホールや園庭など様々な年齢の子どもたちが共有するスペースで遊びを継続することに難しさを感じました。次年度は、乳児と幼児、保育園児と幼稚園児が共に生活する”にじいる”で、それぞれの遊びの連続性にも注目して、保育を行っていきます。

☆コロナ禍における乳児、保育園児、幼稚園児の関わりに目を向けていく。

→今年度は、新型コロナウイルス感染症により、他クラスの遊びや子どもの様子を共有し、異年齢交流をすることが難しい状況でした。次年度は、様々な工夫をして、他の年齢の遊びも意識できるようにしていきます。



## 次年度に向けて

☆認定こども園にじいるならではの遊びの連続性を意識した保育を展開することで、幼児期にふさわしい生活の在り方やそこに向かう育ちの姿が現れるのではないか。

→次年度も継続し、保育の環境を整え、子どもたちの発想や考えを遊びにつなげていけるよう支えていきます。

